

ウィリアム・モリスと
アーツ&クラフツ運動
with Victoria & Albert Museum

1

ウィリアム・モリスと ARTS & CRAFTS MOVEMENT (アーツ&クラフツ運動)

◆18世紀中頃から産業革命が始まりヨーロッパの先進国となった英国

- 1806年にヴィクトリア女王が即位し繁栄を誇った
- 生産の突然の増大による労働者の増大、市民階級の成金の出現、労働力の需要拡大で労働者の都市集中、製品は作れば何でも良く製品に対する価値の追求は無し
- 労働者は心の拠り所も無く社会不安が広がっていった
⇒⇒ 不安な社会の拠り所が必要となる中、12世紀～13世紀の文化を理想とする「中世への憧れ」が追求され始める
(ゴシック様式の再発見＝ゴシック・リバイバル/1840年：ウエストミンスター宮殿/現在の英国議会議事堂・ビッグベン等)

- ◆1834年にロンドン郊外ウォルサムストウに生まれたモリスは
オックスフォード大学で知り合った労働者階級出身の学友バーン・ショーンズ共に
聖職者を志し、**ジョン・ラスキン** (1819-1900 美術評論家。
ゴシック建築が代表的な中世の時代を見直した) の著作を精読する青年時代を過ごした。
ラスキンの著書「ヴェニスの上」の中で論じているのは芸術と職人が未だ未分化の
状態で創造と労働が同じ水準に置かれていて、人々が日々の労働に喜びを感じていた理想の時代
についてであり、モリスはこれに感銘を受けた。
⇒⇒ 産業革命に伴って出現した機械文明、大量生産方式への痛烈な異議申し立てを意味。

◆ラスキンに傾倒したモリスはその後、聖職者の道を投げ打って芸術家に方向を転じます。
最初に選んだのはゴシック・リバイバル建築事務所であったため、
その後自らの新居であり**建築史上名高いレッド・ハウスの建築**をきっかけとし、
仲間達と1861年に**モリス・マーシャル・フォークナー商会（のちのモリス商会）**を設立します。

営業品目：壁面装飾／装飾彫刻／ステンドグラス／金属細工／家具／刺繍／革細工／壁紙等
に至る室内装飾全般で、そのはかり知れない活動意欲が伺えます。
なかでもモリスは最も力を注いだのは
自然を基調とした躍動感あふれるデザインのテキスタイル（プリント・織物・刺繍・絨毯等）
であらゆる素材を駆使して数多くの作品を後世に残しました。

◆**レッド・ハウスの家具・調度品のデザイン**を自ら手がけ、そこから体得したものが
芸術の生活化 という考え方でした。
絵画や彫刻に代表される純粹芸術に対し、身の周りの装飾といった**小芸術 ※**
を生活の芸術ととらえ、そこに創作活動の拠点を置くことを目指した。
(※ Lesser Arts：モリスは他に生活の美、生活の小芸術等と言及し彼の象徴的な言葉となっている。)

◆その実現に向けて「全ての装飾に関する仕事には、芸術的な監督が必要だ」という彼の理念を実践に移し商会は
成功しました。
⇒⇒ 後のヨーロッパ諸国の近代デザイン運動の幕開けとなった
ARTS & CRAFTS MOVEMENT（アーツ&クラフツ運動）
の発展へと結びつく事になります。

ARTS & CRAFTS MOVEMENT (アーツ&クラフツ運動) の誕生

- ◆19世紀後半、英国やアメリカでは、重厚な装飾品で飾られたヴィクトリアン・スタイルが普及していましたが、それは大量生産の技術が導入され、機械生産による量産品等様々なスタイルの商品が氾濫し、質の低下等を招きました。
- ◆モリスはこの状況を不満に思い、熟練した職人による良いデザインの製品を指示しました。
彼自身の工房で職人に魅力的な環境と仕事を与え
要求通りの良い結果を実現させました。
⇒⇒ こうしたモリスの考え方を採り入れた人々が続き
後のアーツ&クラフツ運動に多大な影響を及ぼしたのです。

アーツ&クラフツ のキーワード

- ・簡素で綺麗
- ・シンプルで美しい
- ・自然とのふれあい
- ・草・花・樹

ARTS & CRAFTS MOVEMENT (アーツ&クラフツ運動) の展開

- ◆1880年にはモリス商会の目標と同じ理想を掲げた工房やアトリエが多く生まれ
1888年には<アーツ&クラフツ展示協会>※ を作り作品の発表を行うようになったためにこれらの芸術運動をアーツ&クラフツ運動と呼ぶのはこのためです。
※アーツ&クラフツ展示協会 (The Arts & Crafts Exhibition Society)
少ない工芸系の展示会開催を主目的とした協会。反アカデミイ的傾向の強い団体。
モリスは創設会員の1人で1891年~1896年まで会長を務めた。

・ ウィリアム・モリスとVictoria & Albert Museum (ヴィクトリア&アルバート美術館)

- ◆ ロンドンのハイドパーク近くにある、ヴィクトリア&アルバート美術館 (略称 V&A) は英国全盛期の女王と夫君の名を冠した世界最大規模の美術・工芸・デザインの美術館です。

モリスの提唱した「芸術を生活に」の理念を忠実に体現している英国国立のこの美術館は、1852年の設立当初から生活から生まれた工芸装飾品の膨大なコレクションで有名です。その中にウィリアム・モリスのコレクションがあります。

- ◆ 当時モリス商会の初仕事としてV&A のグリーン・ダイニングルームの設計・装飾を受注しましたが美術館の設立当初の評議委員としても活躍。「死語の一切の遺品を当美術館に寄贈する」という遺言を残したことで知られています。

当時モリスの貫いた基本理念がこの美術館と同じものであったためと考えられます。美術館西側の外壁にはモリスの石像が堂々と下界を見下ろしています。

◆V&Aエピソード

夏目漱石がロンドンに留学するのは1900年(明治33年)。モリスの死去(1896年)から4年後だ。

漱石のロンドン留学日記にはモリスの書籍を購入したこと、

漱石のロンドン留学日記にはモリスの書籍を購入したこと、モリスと関連が深かったヴィクトリア&アルバート美術館(モリスがインテリアを手掛けたカフェ「グリーン・ダイニングルーム」(今の「モリス・ルーム」がある)へ足を運んだこと、ジョン・ラスキンやロセッティの絵画を観たことなどの記述があり、

現在、東北大学図書館に「漱石文庫」として収蔵されている漱石山房の蔵書のなかには複数のモリスの書籍が確認されている。

(text by 大村哲弥 (サイトガイスト株式会社: 英名: zeitgeist, inc. ホームページより))

Victoria & Albert Museum William Morris Trail



① ヴィクトリア&アルバート美術館
ファサード



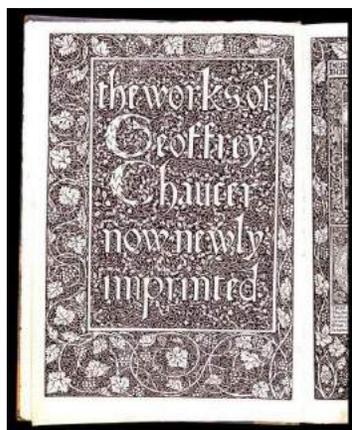
② ウィリアム・モリス 1884



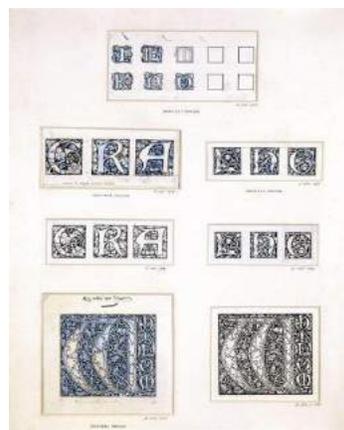
③ グリーン・ダイ
ニングルーム
(世界初のミュージ
アムカフェ)



④ アームチェア
モリスとウェップデザイン



⑤ 1896 the works of
Geoffrey Chaucer



⑥ Wood engraving



⑦ print



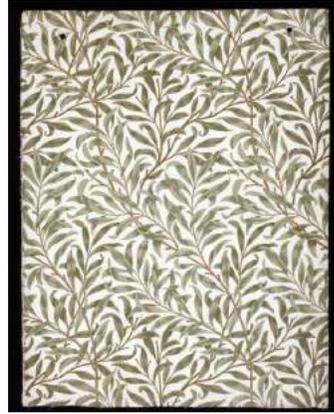
⑧ 1893 Maud



⑨ 1883 strawberry thief



⑩ 1868-70 daisy



⑪ 1887 willow bough



⑫ 1876 pimpernel



⑬ 1875 acanthus

THE RED HOUSE

⑭ レッドハウス：建築や内装を自ら手がけ芸術の生活化を実践した



参考文献

- ・美術出版社 世界デザイン史 監修 阿部公正
- ・千穂館 ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ運動 リンダ・パリー&ギリアン・モス
- ・1999年日本開催：ウィリアム・モリス展カタログ 監修 鈴木博之 編集 ブレーン・トラスト
- ・1997年日本開催：モダンデザインの父 ウィリアム・モリス展カタログ 監修 内山武夫
- ・オックスフォード 西洋美術事典（1989年版）
- ・東京美術 もっと知りたいウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ 著者 藤田治彦
- ・岐阜市女子短期大学研究紀要 第55輯（平成18年3月）
生活における労働と造形行為 ウィリアム・モリスとジョン・ラスキンの生活デザイン考
- ・7頁・8頁 : 画像 ①～⑬ ヴィクトリア&アルバート美術館 ホームページ アーカイブ
- ・8頁 THE RED HOUSE : 画像 大村哲弥（ザイトガイスト株式会社：英名：zeitgeist,inc. ホームページ
- ・8頁 THE RED HOUSE : 画像 GENT`S STYLE Yoshimihasegawa William Morris 1 Red House ホームページ